

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月7日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.54】

JR総連・東労組の裁判で闇の実態解明はさらに進む！

JR総連・東労組は、10月31日、日比谷公会堂で「弾圧から7年！労働組合活動を犯罪とした暴挙に抗し上告審に勝利する 10・31 集会」を開催するそうだ。彼らには内ゲバ被害者を偲ぶ日など、特異な記念日が多数あるが、当日は、2002年に当時の東労組・嶋田副委員長や現JR労組委員長の本間氏ら8名の役員が東労組元会長の松崎氏を頂点とする“本部派”と袂を分かって辞任した「背信を忘れない日」、11月1日は、同年、浦和電車区事件で加害者7名が逮捕された「大弾圧を忘れない日」である。役員らには特別な時期かも知れないが、一般組合員にとってはいい迷惑だろう。

そして、嶋田元副委員長らが結成した「JR東労組を良くする会」作成の「JR革マル派43人リスト」に対し、革マル派と名指しされた松崎氏ら43名は、2008年9月、リスト作成者9名を相手に民事提訴した。現在、審理の最中だが、今後、被告側からリストの記載内容の真実性を主張すべく、組織の中核にいた者にしか知り得ない貴重な情報が明らかにされることは間違いない。さらに、JR総連元会長の福原福太郎氏が「谷川忍」名で「小説労働組合」(2005年6月発行)を執筆し、松崎氏らをモデルにした「小説」の形で、同氏の独裁的な組織運営や私物化の実態など、JR総連・東労組の内部事情を明らかにしたが、松崎氏とJR総連・東労組は、2008年12月、福原氏を相手に同じく民事提訴した。福原氏は、松崎氏と運動を共にしてきた右腕的存在であり、この裁判でも、隠された真実の解明がさらに進むことは疑いがない。先にも指摘したが、これらはJR総連・東労組にとって、革マルとの関係や組織私物化の実態を暴露される危険性の高い裁判だ。革マル派弁護士とみられるW氏やH氏が代理人となっているのは、彼らの危機感の高さの表れであろう。

「反スタは忘れるな！」と述べた東労組・石川前委員長

ところでリスト裁判の被告でもある本間氏は、「週刊現代裁判」の証人尋問で、役員退任時、東労組前委員長の石川尚吾氏と、お互いが所属する革マル派についてやり取りをしたことを証言している。裁判を通じ、このような驚愕的な事実が次々と明らかになるだろう。

(被告側代理人)本間さんは、2002年10月31日にJR東労組の中央執行委員をお辞めになりましたね。(本間)はい、そのとおりです。(代理人)そのあと、私物を取りにJR東労組の本部に行ったということがありましたか。(本間)あります。(中略)(代理人)そのとき、石川さんと何かやり取りをしたということがありましたか。(本間)ありました。(代理人)どんなやり取りがあったんでしょうか。(本間)-(前略)-私の前に石川さんが来て、辞めてもいいけれども、反スタは忘れるなというふうに私に言いました。(代理人)反スタというのは、どういうことでしょうか。(本間)革マル派の理論の反帝・反スタという中心的な理論がありますけれども、スターリニズムに反対をするという意味です。(代理人)-(前略)-辞めてもいいけれど反スタは忘れるなというのは、どういう意味でしょうか。(本間)組合の役員を辞めるというなら辞めてもいいけれども、反帝・反スタというその革マルの思想は捨てずにそのまま生きていけという意味だと受け止めました。(代理人)ということは、その時点、2002年の11月ですけれども、本間さんも石川さんも、お二人とも革マル派のメンバーであったし、そのことをお互いに相手がそうだと知っているということでしょうか。(本間)そうです。